

私のたまごやき

落合小学校 四年 西 陽莉

「ひまちやん、いつものおねがいします。」
とリクエストされると、私の特せいたまごやき
が食たくになつる。

「上手にまけてる。」

「おいしそう。」

と家族みんながほめてくれる。黄色のふんわり
大きなたまごやきは、ほんのりあまくて、少し
しょうゆがかくし味になつていて。

初めてたまごやきを作ったのは、四才の時だ
った。お母さんに教えてもらつて作つたたまご
やきは、頭にうかんだものとは全然ちがつて、
スクランブルエッグのようだった。それでも家
族のみんなは、

「上手だね。」

「ふわふわでおいしそう。」

と笑顔で食べてくれたことを、今でもおぼえて
いる。それから、私は料理をすることが好きに
思ついた。

なり、いためものやフルーツポンチを作ること
がふえた。包丁も使えるようになり、野菜や果
物を切るなどのお手伝いもふえた。料理をする
時に、こぼれてしまつたり、こげてしまつたり
色々な失敗もあつたけど、その度に、家族は、
「大じょうぶ、大じょうぶ、問題ない。」

と言ってくれる。失敗も大事なけいけんと、は
げましてくれることが、私の力となつていて。

お父さんが幼いころ、おばあちゃんに作つて
もらったたまごやきが思い出にのこつていて、
私のたまごやきを食べると大好きだつたおばあ
ちゃんに重なるそつだ。おばあちゃんは、この
四月になくなつた。長いあいだ、しせつにいて、
会うこともほとんどなかつたけど、ビデオや写
真を見返すと、一緒にくらしていたときおばあ
ちゃんと私がいて、やさしく頭をなでてくれた
り、私がおばあちゃんのかみの毛をくしでとか
してあげたりしているすがたがうつつていた。
わたしは、料理を作ることが多くなつた。そ
の中で、たまごやきにかくし味を入れることを

「今日のたまごやきは、かくし味のしょうゆが入っているんだよ。」

と言つてたまごやきを出した。すると、お父さんが、

「おいしい。そういうえば、ひいおばあちゃんのたまごやきにも、しょうゆが入つていたな。」

と言つた。私はおどろいて、うれしくなつた。

私はおばあちゃんのたまごやきを食べたことはないけれど、実はおばあちゃんもさとうとかくし味のしょうゆを入れていたと聞いて、知らないうちに同じ味が受けつがれていたんだと思うと、うれしい気持ちになつた。

夏休み、五才の弟がたまごやき作りを始めた。私は失敗もけいけんと見守りながら、このたまごやきをずっと守つていきたいと思つ。